

# とよなか 環境



## ニュースレター

発行：NPO法人とよなか市民環境会議 〒191-21  
編集責任者：奥野 享  
事務局：豊中市環境情報サロン内  
〒561-0804 豊中市曾根南町1-4-3  
Tel:06-6863-8792 Fax:06-6863-8734

### この号のハイライト

P.1 竹炭プロジェクト/P.2 島  
熊山緑地/P.3 いもっ子、まめっ  
子、かぼちゃっ子/P.4 生活部  
会/P.5 屋上緑化施設見学会/  
P.6 天竺川の春を探そう/P.7  
環境政策室/P.8 あゆみ

2007年(平成19年)夏号 NO.19 (通巻第37号)



### 竹炭プロジェクト

## 竹の間伐から公園の自然管理へ

千里中央公園は昭和43年にオープンし今年40年目を迎えました。当時植えられた木々も大きく育ち立派な公園に生まれ変わって、4月上旬には桜が満開となり終日花見客でごったがえしておりました。この公園の中には竹林が2箇所ありますが、私たちグループは双方の竹の間伐と枯竹や倒竹木などの整理を行って一通り終了しました。

しかし、竹は一度切っても毎年あとからあとから生えてくるので終わりは無いようです。4月から間伐の再スタートを切ったところです。

ところで、南千里～箕面線(体育館前)の道路に面した土手には、桜の木が25本ほど植

えられていますが、今年に入って急遽周囲の竹を全面的に切りました。開花に間に合い道行く人の目を和ませてくれたと思います。

また、滑り台周辺の林は以前の大雨で何箇所にもわたって表土が崩れて、木の根がむき出しになっています。ところが子どもたちはわざわざこんなところで滑ったり、山登り気分ですり降りたり、格好の遊び場所となっています。そんなこともあって土の流出をくい止めるべく、土留め作業を通常作業の間に組み入れながら実施しています。皆さんに親しみ喜んでもらえる公園をめざして、やるべきことは沢山あるのですがこれから順次解決して行く考えです。

去る4月11日には18年度の活動報告会を催しました。行政からも担当者に参加していただきました。

竹きりは18回実施、他に雨に打たれて中止が1回、製品作りなどの作業に振替が5回ありました。自然が相手の野外活動ではなかなか計画通りには行きません。

竹炭焼きは予定通り10回実施しました。窯出し時の期待感と毎回一窯一窯異なる出来に、いまだ竹炭焼

きの難しさを感じております。その他イベントへの参加、製品頒布、竹工作などはほぼ順調に消化することが出来ました。

今年公園のホットニュースは珍しい野鳥が訪れたことです。2羽のコイカルが地上のシナサワグルミの実をついばんでいるかと思えば、安場池にはオシドリが多いときには20数羽



が泳ぎ回っていました。きれいな姿にあの銀杏羽が人気の秘密です。2種が重なり公園内は双眼鏡やスコップを携えたバードウォッチャーとカメラマンで、一時大変な賑わいとなりましたが、いずれも4月中旬に渡去しました。このように木の成長と共に野鳥や昆虫にとっても住みよい公園となったようです。広い公園でするので自然学習には最適の場所でいろいろな発見が出来ると思います。また、竹切りや竹炭焼きは毎月実施しておりますが、身近で実際に自然に触れる事ができる場として体験参加して見ては如何ですか。

19年度も竹の間伐と竹炭焼きを中心とした活動となりますが、今後は景観にも目を配りながら竹林内はもちろんのこと、公園全体の自然管理に力を注ぐ考えです。  
(三宅史郎)



## 自然部会

# 地元住民と協力し「島熊山緑地」で竹を間伐

千里丘陵の面影を残す島熊山の一角にあり、昨年8月に大阪府から豊中市へ移管された「島熊山緑地」で、4月13日竹の間伐を行いました。



この森は1996年のヘリポート建設計画変更の住民運動以降、市民による「島熊山基金」活動を通じた「ぜひ残してほしい」という声が届き、豊中市へ移管し保全されることになったものです。

当日は地元の新千里西町と緑丘の自治会、西町男性ボランティアグループ、緑化リーダーグループ、島熊

山の雑木林を守る会、アジェンダ21自然部会、一般参加者など27人が集まりました。西日本各地の里山同様、この森でも雑木林内への竹の侵食が著しく、コナラやアカマツ、コバノミツバツツジ等の樹冠が竹に覆われ、立ち枯れてきています。1年で18メートル近く成長する竹は、毎年地下茎を伸ばし、森全体へ広がり占領しようという勢いです。竹が芽を出し、大きな成竹になる前のこのシーズンの整備は欠かすことができません。

この日は初参加の方もあり、最初に竹の伐り方や枝の処理の仕方、林内へ積み上げる手順について確認しました。入念な準備運動の後、若竹班と成竹班に分かれての作業です。起伏の多い林の中を歩き回り、足場の悪い急斜面で若竹を掘るのはかなりの体力が要ります。水分たっぷりの若竹を一箇所に集めるのは更に大変で、息が上がり全身汗びしょりです。午前中かけて作業に集中しましたが、広い林内にはまだ若竹が多く残りました。終了後のティータイムの折、今後このような形で更に手入れの回数を重ね、雑木林本来の豊かな生態系を保っていこうと話されました。(易信子)

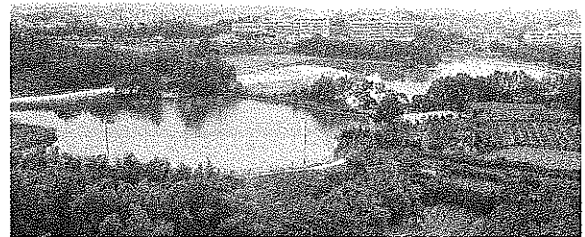
## 自然学習講座

## 羽鷹池の取り組みから豊中の自然を考える

自然部会では、2006年度も3回の自然学習講座を開催しました。これまでは土曜日の午後で開催していましたが、2006年度は新たな試みとして、いずれも平日(月曜日)の夜に開催しました。今回は2006年度の第2回を報告します。

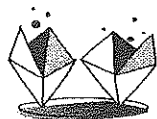
第2回自然学習講座は、2007年2月19日(月)にくらしかん3階イベントホールにて、「羽鷹池の取組みから豊中の自然を考える」というテーマで行いました。講師は豊中生物同好会の安川哲三郎さんで、参加者は31名でした。安川さんは、豊中生物同好会の会員として豊中市内の自然環境の保全活動に長年携わり、1986年に発行された「とよなか『羽鷹池の自然』」の作成などにも関わられました(写真は当時掲載された羽鷹池周辺の様子)。

講座では、豊中市少路地域に残された羽鷹池の保全活動について、当初からの活動経過や活動内容を詳細に説明いただきました。その後、安場池、島熊山、猪名川自然林など、戦後の豊中市内の自然保全運動の歴史についてや、猪名川自然林で1974年



と2004年に実施された植生調査の結果についての紹介などがありました。

「豊中におけるこれまでの自然環境保全活動で、羽鷹池をはじめ、少しでも保全することができた地域には、すべて共通点がある」と安川先生は説明されました。それは、①地域住民の積極的な活動、②豊中生物同好会など専門家の調査、③調査結果を理解できる行政職員、という3つがそろっていたことだそうで、そのお話は非常に印象的でした。今でも開発などで減り続けている豊中市内の自然環境を保全するためには、こうした共通点を重視し、連携した保全活動を進めていければと思います。(廣田学)



## いもっ子にまめっ子、かぼちゃっ子倶楽部

花と緑のネットワークとよなか

昨年は、いもっ子倶楽部オーナー制を導入し、ジャガイモの植え付けから草取り、追肥、観察、収穫と子どもたちにとって貴重な経験と感動を与えた事業を展開しました。大変な好評だったことで本年度は更に作付け種類を増やすこととなりました。

幸運にも「セブンイレブンみどりの基金」の助成決定通知が届きました。助成金は845,290円です。昨年度のJTに続いて連続助成の快挙です。

昨年は雑草に悩まされた畑も、今回の助成によって待望の管理機(耕運機の小さいもの)を早速購入しました。除草・耕運・畝立てと大活躍の優れものです。

名前は「ヤンマーふらみんご」管理機(写真参照)です。

今年のジャガイモ植え付けは3月2日に市内仏光幼稚園の園児たちによって10キログラムの種芋1個を4~5等分に切ったものを30センチ間隔で植え付けました。

また、市広報誌で募集した親子の皆さんにも参加いただき、とよっぴーを入れた畑に

スコップで穴を開け「早く芽を出せ、大きくなーれ」と願いを込めて植え付けてもらいました。

4月13日は親子オーナーいもっ子倶楽部のジャガイモ畑観察会と、草取り、追肥作業とを体験してもらいました。「芽が出てだいぶ大きくなったね」親子で確認しながらの作業でした。最後に「早く大きなジャガイモになーれ」とジャガイモにあいさつをして作業を終りました。6月22日の収穫日を楽しみにして帰られました。

本年はいもっ子倶楽部に続き、まめっ子倶楽部、か



ぼちゃっ子倶楽部を結成しました。5月1日市内保育所の子どもたちに植え付けしてもらう予定をしていましたが、またもメンバー内の雨女の登場、雨降り中止の憂き目。しかし、5月2日は天気も回復し、原田小学校5年生96名、校長先生ら6名の先生方とでかぼちゃ品種「小菊」「えびす」「ほっこり」42株植え付けました。また枝豆427本を植え付け、種260個も蒔きました。

花と緑のネットワークのメンバーから、「この場所は君たちが食べた給食に使った残菜と食べ残した物と街路樹のチップで作ったとよっぴー堆肥で野菜を作る実験農園です。そして作った野菜はまた君たちの食材、つまり食の循環をしています。今までごみとして燃やしていた物を地球環境を守るため有効利用しているんですよ」と学習もしました。そして種まき、植え付けの説明を受けて子どもたちによる作業を終えました。

例年ですと収穫は夏休み中になってしまうので今年は休み前に収穫すべく早生品種を採用しました。

追伸 5月14日現在。ジャガイモ、かぼちゃも、枝豆も順調に生育しています。(柳沢俊治)

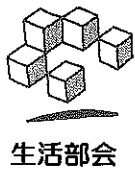
### 限度いっぱい利用されている「とよっぴー」

花と緑のネットワークは、堆肥化施設「緑と食品のリサイクルプラザ」で生産された土壌改良材「とよっぴー」の配布・啓発事業にかかわって6年目になりました。開所の2年目2003年からは、生産量の一部を市民の方へ有料で頒布することになり、年間わずか17回1時間、施設敷地内で頒布しています。とよっぴーの配布と頒布については、年間の製造量が限られているので、行政の関係部局と市民が入った「リサイクルプラザ推進連絡会」で年間配布計画をたてて決めています。

昨年の配布実績は、合計115トンでした。そのうち無料配布は46トンで配布先は市立幼稚園・小中学校・保育所等の教育施設・市内農業者団体など地産地消の協力農家・花いっぱい運動・堆肥化講習関係です。

残りの有料頒布は、69トンでイベント頒布も含めて延べ1446人の方に購入していただき、市民農園や家庭菜園に利用され好評です。リピーターも多いですが、毎回新規の方も10人以上来られています。

今年も「とよっぴー」に付加価値をたくさんつけて、教育関係や農業者と連携し、地産地消・食育学習を楽しく展開していきたいと思っています。(高島邦子)



## エコライフカレンダーモニターの活動を振り返る



昨年1年間のエコライフカレンダーモニターの努力の跡を示す冊子である「2006年エコライフカレンダーモニターの活動を振り返る」ができました。

冊子はA4版23ページ、トップはまずこの1年間の振り返り、モニターの声から“異常気象の実感”

を話題にしています。内容としても、省エネ生活の事例研究が2件載せられ、家庭生活での具体的な省エネについて、いっしょに考える姿勢が感じられます。ソーラーパネルを取り付け、オール電化にした経験

の紹介があり、また省エネ機器に買い替えたり車の省エネのため友人に理解してもらって、それまで趣味のスポーツに送り迎えしていたのを止める話など、モニターのナマの話が魅力的です。

同時に、ホットニュースであるIPCC〔気候変動に関する政府間パネル〕の3つの作業部会の報告が出されたことも話題にし、報告が「地球温暖化の原因は人間活動の可能性がかなり高い」と今まで以上に原因についての確信が強まったことから、エコライフカレンダーのような環境家計簿の運動の重要さがいよいよ強まってくるのではないかと決意も込められたためになりました。

なお、2006年のモニター活動は人数で4%減っていましたが、今後も生活の場に根ざした運動がますます大切になることも予感しています。(奥野)

## 近未来に向けた省エネ実験住宅「NEXT21」見学会

2月21日午後3時からエコライフカレンダーモニターさん他で総勢20人が、清水谷町6丁目にある大阪ガスの実験集合住宅「NEXT21」の見学に行きました。

「NEXT21」という名の実験住宅は1994年から第1期で、今回は第3期の実験。戸数16戸は入居直前で、色々な仕様の住居に入り環境問題への取り組みを見学しました。

最初に見た住居は、二重ガラスの大きな窓の部屋で断熱効果も高く、晴天だったこの日は床暖房だけで室温が21度になっていました。夏にはスイッチ操作で二重ガラスの窓の隙間に遮光スクリーンを下ろすこともできます。発泡ウレタンによる壁の断熱効果ともあいまって、省エネ効果が大きいことを実感しました。

この第3期の実験住宅は、より環境性の高いエネルギーシステム追求が大きなテーマであり、①建築の断熱性能の強化、②太陽光発電や燃料電池による発電システム、③屋上緑化など夏の暑さ対策、などの実験課題についての追求です。

大半の住居へのエネルギー供給は、水素で発電する

燃料電池システムの実験があります。5、6階の8戸の住宅には定格発電出力500ワットの燃料電池を各戸に設置。また、3階の6戸の住宅には2戸に1台の700ワット燃料電池が設置されています。まだまだ消費電力の一部をまかなう程度ですが、発電による排

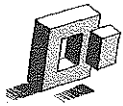
熱回収率が46%以上、回収される排熱の温度は60~70℃ですから、給湯としての利用に十分間に合うでしょう。

それ以外にも隣組コジェネレーションシステム(ガスタービンでの発電などのときの排熱の再利用)があり、屋上には実験当初から設置されている7.5キロワットの太陽光発電も稼働。断熱・遮熱と併せエネルギー負荷1/4

を目指す実験住宅の工夫の色々がありました。

最後に感じたことですが、6階まである実験住宅の1階部分には上町台地界隈に息づく歴史ある地域文化の保存と創造・発展のためにフリースペースを設け、地域との共生への拠点になるような、意欲的な試みがなされています。また、近所同士のつき合い演出の大道具として、家と家との間のスペースに置かれた井戸のオブジェが目につきました。(奥野)



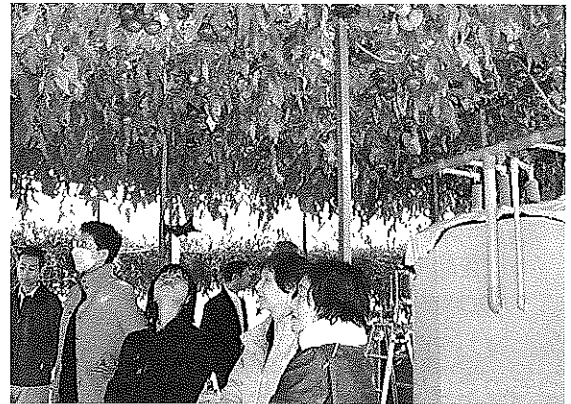


産業部会

## さつまいも屋上緑化システム見学会

3月6日、高槻市にあるハイポニカふれあいファームを訪れました。これはさまざまな屋上緑化システムについて学習した中で特に関心の高かった水気耕栽培（水耕栽培）による屋上緑化を見てみよう企画したもので、40人の参加者がありました。

屋上緑化は都市部におけるヒートアイランド対策として関心が高まっていますが、今回見学したシステムは水に肥料を溶かした液肥をポンプで循環させ自動的に給水する装置で植物を育てるものです。土を使わないため建物への重量負担が少なく、また根による建物への影響もないため防根シートも不要で、特別な防水対策を施す必要もないというのが特徴です。また、さつまいもは多くの葉が広がり水分の蒸散や断熱作用があるため、かなりの断熱効果とヒートアイランド現象の緩和に役立つことが実証されているということでした。それらの説明を受けた後農園を見学し、つくば万博でも紹介されたというトマトの巨木を目にしたときは見学者の方々から歓声が



上がりました。このシステムは植物の持っている潜在的な生命力を引き出して育てるもので、一粒の種が数カ月で巨木となり、何千個ものトマトが実っている姿は感動的でした。そのシステムを使って屋上にさつまいもの葉を生い茂らせることにより暑い豊中を少しでも涼しくし、CO<sub>2</sub>の排出抑制にも繋がればと思います。  
(茨木かづ子)

## ビル管理における省エネ対策と具体的事例

産業部会では3月22日午後1時30分から、商工会議所会議室で「ビル管理における省エネ対策と具体的事例」と題した講演会を開きました。講師は省エネセンターのエネルギー使用合理化専門員 福田光久さん。1時間45分の時間いっぱいを使い以下のように詳細な説明でした。

業種別エネルギー消費では、病院がもっとも多く、次いで百貨店・ホテル・オフィスの順になっていますが、オフィスを例にとって省エネの特徴と具体的対策の話が進められます。

オフィスビルのエネルギー消費では、空調・照明の占める割合が全体の85%を占めもっとも大きな割合です。

OA機器の普及によるエネルギー消費も多くなっていますがまだ負荷としてはそれほど大きくありません。省エネの着眼としては次の点が重要です。

①日射による負荷 これに対してはブラインドの活用、遮熱フィルムを窓ガラスに貼るなどが有効です。

②空調について 省エネ調整をやることです。個々のビルによって設備が異なりますが、温度設定を変更すること、とくに冷房時に気をつけることです。室内温度分布にも配慮し扇風機などを活用することも有効です。在室者に合わせた外気量の削減など、

できることはいっぱいあります。

③よく言われていることですが空調の室温設定を1℃緩和することで、空調熱源の消費エネルギーは6%程度削減できます。④夏季の除湿制御を中止しても相対湿度はおおむね50%程度に保たれるので、省エネルギー効果としては5.5%程度の削減効果がうまれます。

その他、中間期の冷房の代わりに積極的に外気を導入することも効果があることなど、具体的事例の話がいっぱいでした。続いて環境政策室からは「豊中市におけるESCO事業の取り組み」の報告を聞き学習会を終えました。  
(奥野)





# 天竺川周辺の春をさがそう2007

## 天竺川プロジェクト

### 地域の魅力をみんなが実感できるまちに！

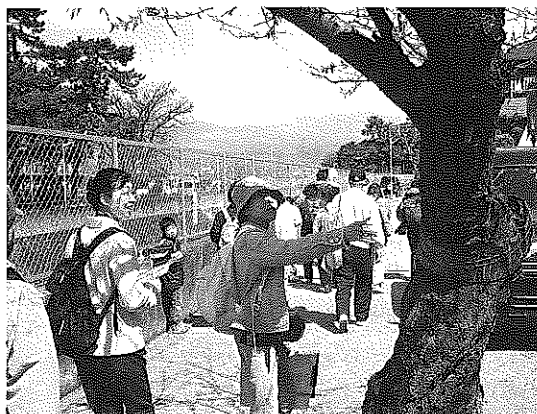
とよなか市民環境会議アジェンダ21も参画している、服部緑地・天竺川周辺「地域の魅力・顔づくりプロジェクト」推進連絡協議会のイベントが春休み中の3月30日に開催されました。

今回は阪急服部駅近くにある服部天神宮から天竺川へ向かい、住吉神社を経てそのまま天竺川沿いを服部緑地の入口まで歩き、地域の魅力を発見してもらうというものでした。今回はベビーカーに乗った1歳の子どもから79歳まで、幅広い年齢層の人々が集まりました。

まず、服部天神宮の加藤宮司さんから神社の由来や周辺地域の変遷などのお話を聞きました。服部はかつて能勢街道の宿場で、そのにぎわいが今に残っているとのことでした。そして、コーディネーターからまちあるきの視点について説明があり、いよいよスタートです。アジェンダ自然部会のメンバーが植物や昆虫の解説をしながらみんなで歩きました。国道176号線を渡り、樹木で囲まれた住吉神社の境内を通り抜けた後、交通量の多い道路を渡って天竺川沿いの道を北上する場所では、ベビーカーを押す人には危険な場所と感じられたそうです。

天竺川沿いは、服部緑地から続く緑地帯になってお

り、参加者は道沿いにあった切り株の年輪を数えたり、広場のわきを流れる水路を見るなど思い思いのペースと感性でまちの魅力を探しました。西願寺橋までたどり着くと、そのすぐ南側にある現在はフェンスで閉ざ



された原っぱで休憩しました。中に入らないと見られない咲き始めの桜を見ながら、お茶を飲みながら談笑しました。再出発すると、車の通らない樹林帯を歩きます。しばらく歩くと、天竺川を越えて服部緑地公園へ続く橋があり、その周辺は、川をはさんで片方は白いユキヤナギが咲き、もう片方は桜並木が続きますが、桜はチラホウ咲きで

した。

ちょっとした視点で地域の魅力が見つかることがわかり、これらがもっと実感できるようなまちになっていけばいいなと感じました。

(井上)

## 環境クイズ

地球温暖化がいよいよ深刻になっていますが、原因物質のCO<sub>2</sub>を多く出している国のうち1人あたりでは日本は何番目でしょうか。①3番目、②6番目、③9番目 [答は8ページ]

## 環境とわたし

⑬

### 藪本圭一さん

#### 自然部会



1952年ごろ豊中駅から蛍池に至る176号線に沿って家並みはとぎれながら池田まで続き、確かにこの道だけが舗装路だったように覚えています。田園風景に溶け込んだ家々のかまどの煙が立ち上る情景は、当時の豊中を知る方以外には想像しがたいと思います。

田園風景に点在する樹林や、北西部に見られる里山の豊かな緑あふれる土地では、気候風土も穏やかで人々の暮らしも、落ちついた佇まいがありました。私は恵まれた自然環境と共に少年期を過ごしました。今でも疲れたとき、まぶたを閉じると子どもの頃に、刀根山や島熊山・千里川で野草摘みや魚取りをして遊んだことを思い出し郷愁に誘われます。

3年前から、アジェンダの自然部会に参加させていただき、上野丘でピオトープを造り地元の方々と野草

を育てています。子どもの頃身近に見た野原の草花を集めています。市内ではほとんど見かけない貴重な野草を少しずつ増やそうとしています。春からムラサキサギゴケやキジムシロ、アザミの花がたくさん咲きました。ウツボグサ、ツククサは7月頃に。アキノタムラソウやワレモコウと続きます。ここは場所が狭いので新たな広い公園等に「野草の見本園」を造りたいと考えております。園路に沿って多種類の野草を観察できるように市民の皆様と管理し、四季折々に「可憐な花の咲く野草」を育てます。地元の皆様も参加して育て楽しんでいただける、環境づくりをしたいと考えております。

# 環境的に持続可能なまちづくりを推進しましょう

とよなかの環境Ⅱ～2005年度評価と今後の展望～ を発行しました

豊中市は、改訂環境報告書「とよなかの環境Ⅱ～2005年度評価と今後の展望」を発行しました。

本書は、「2005年度の環境目標の状況と取組みのふりかえり」「審議会評価と市民意見ならびにそれに対する市の考え方」「今後の展望」で構成されています。資料編には、条例や計画などの一覧、2005年度実施事業と2006年度計画施策の内容、モニター指標の経年数値などのデータベースを掲載しています（市のホームページからご覧いただけます）。

2007年度からの環境関連の主な取

組みは、①地球温暖化防止推進地域計画の策定と推進②環境的に持続可能な交通（EST）モデル事業③国連「持続可能な開発のための教育（ESD）の10年」の推進④神崎川公園の整備に向けた検討⑤下水道緊急浸水対策の推進⑥食育推進計画の策定⑦重点整備地区の交通バリアフリー整備です。

■市民団体・事業者のみなさんの 2006年度の環境への取組みをお知らせください。「とよなかの環境Ⅰ～2006年度活動実績」に掲載します。  
 (問) 環境政策室 ☎6858-2128  
 Fax 6842-2802

■2005年度の環境目標の状況(「とよなかの環境Ⅱ～2005年度評価と今後の展望」より)

環境目標	2004年度値	2005年度値	進捗状況	目標値
協働型活動参加者数 [とよなか市民環境展参加者数]	0.39% [1,500人]	0.47% [1,800人]	○	市内人口の0.5%以上
1人あたりのCO <sub>2</sub> (二酸化炭素)の排出量	(3.3%増)*	1.9%増	○	対1990年度比4～5%減
1人あたりのエネルギー消費量	(5.6%増)*	5.4%増	○	対1990年度比2%減
ごみの純排出量	28.0%減	28.9%減	○	2011年度ごみ発生予測量の33%削減
緑被率	(14.7%)*	13.1%	×	17%
雨水浸透率	(0.199)*	—	○	0.21
環境基準の達成状況 (大気汚染物質、騒音等)	93.5%	94.1%	△	100%達成

\* ( )数値は2000年度値です。

## 雨水貯留タンクの設置費を助成!

雨水貯留タンクは、植物への散水や洗車などに有効利用できるほか、水害発生時には、一度に雨水が下水管に流れ込むことを防ぐ治水対策設備としての機能もあります。

■内容=80リットル以上貯留できる雨水貯留タンクの購入額の3分の2を助成(上限4万円、助成を受けた翌年度4月1日から7年以上存続設置が必要)。

問環境政策室 6858-2107・下水道管理課 6858-2456

夏の省エネルギーキャンペーン

## 「クールビズ」で、さわやかに

6月1日～9月30日

電気、燃料などのエネルギーの消費を抑えると、温室効果ガスの排出が抑制できます。

地球温暖化防止のため、冷房時の室温を28度に設定し、「ノー上着、ノーネクタイ」などの軽装スタイルで夏を過ごしましょう。

## 6月20日に定期総会

6月20日(水)午後1時30分から、とよなか市民環境会議と、NPOとよなか市民環境会議アジェンダ21の総会を豊中市立市民会館で開催します。

アジェンダ21の総会は、2006年度事業報告と同収支決算報告について承認するとともに、2007年度事業計画と同収支予算について審議します。なお、提案される予算はほぼ前年度を踏襲した規模になる予定です。

また、とよなか市民環境会議総会では新たに「(仮称)とよなかエコ市民賞」の創設が議案として出されます。

総会に先立つ記念講演では、「地球温暖化を考える」～世界の危機!温暖化はここまできている～と題して、朝日新聞社カメラマン、小林裕幸さんによる報道写真を使った話を聞きます。

## 「協働の方程式(10年の歩み)」の出版にとりかかる

1996年にとよなか市民環境会議が発足して10年がたちました。この間、社会の変化の中で、市民・事業者・行政が試行錯誤しながら協働で取り組みを進めてきました。その中で得られた経験を当事者だけではなく多くの人に共有し、今後の取り組みに幅広く活かしていけるよう、この10年の歩みをまとめた書籍を発行することにしました。

とよなか市民環境会議という組織作りから「豊中アジェンダ21」の策定作業、そしてその推進へ、さらにNPO法人としての協働事業運営などの中から見えてくるものが、市民・事業者・行政が協働する際の方程式として提示できればと考えています。

そのためには、できるだけ多くの方の経験と思いを盛り込み、生き生きとした事実の積み重ねが重要だと考え、現在は、広く関係者へのアンケートを行うなどの取材を始めています。今後も何かとご協力を求めることがあるかと思しますので、どうぞよろしくお願いいたします。(井上)

## 編集室から

▼腹立たしいのは、とうもろこしからバイオ燃料を作りガソリンに混ぜて環境問題に貢献しているかのような顔をする人々。とうもろこしの価格が上がるだけではない、地球上には食料不足で飢餓線上に暮らす人々がいっぱいいるのに、何と言う手前勝手な。(Z)

▼小柄な孫が、大きめの学生服を着て中学生になりました。新入生100名の小規模校で落ち着いた学校。迷っていたクラブも吹奏楽部に決まりました。彼は習い事を始めると途中でやめなところが長所です。3年間で心と身体がどう成長するかが楽しみです。(H)

▼地球温暖化の原因である二酸化炭素の排出を減らすには、いかに化石燃料の利用を控えるかにかかっている。だが、現実には人類はふんだんに化石燃料を利用し続けている。それゆえ、有言だけで実行が伴わない

限り、地球環境の改善に道はないと思う。(S)

▼4月から職場環境が変わりました。事務服を阪神淡路大震災のときに着ていた作業服に着替え、「環境人」に。聴く音楽は、合唱組曲「水のいのち」などの循環型「環境音楽」に。さらに、お漬物も毎日、「環境漬け」にすると、体にやさしくなるかなあ…。(T)

▼IPCC第4次評価報告書など、地球温暖化関係の報道が増えましたが、そんなことに目がいかないくらい悲惨で残酷な事件が続いています。持続可能な暮らしを考えると、どちらの問題も解消されるような人と社会の関係づくりが必要なのかもしれません。(J)

▼「不都合な真実」娘と観たのは2月です。先日、旅先の豆田町で映画のポスターを見かけました。地球温暖化防止に向けて大きな流れを感じます。電気の無駄遣いをする夫と息子に観てほしい映画。話題を共有したいので、次は家族一緒に観たい。(P)

**環境クイズの答** ②の6番目です。1番は米国、2番以下はオーストラリア、カナダ、ロシアと続き、5番からのドイツ、日本、英国はほとんど差がありません。(2004年の資料による)

《広報f-m》

Z奥野、H岡、Y小村、S猪尾、T中村、J井上、P大村

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~toyonaka/>  
Eメール [ecoshimin@kmd.biglobe.ne.jp](mailto:ecoshimin@kmd.biglobe.ne.jp)